

審判の心得と役割(上達コース)[1]

改訂4 : R2. 1. 12

栄区囲碁普及会

ルールの確認

本HPにある「日本囲碁規約より(対局の流れ)」をよく理解しておく。

基本原則

両対局者に公平になるように接し、対局に集中できるように万全の配慮を払う。

対局中には必要がある場合(トラブル発生時)以外対局者とは口を利かない。

(咳払いや「えっ!」とか「うーん」とかの声を発してもいけない)

トラブルへの対応(一般原則)

- 1、手入れが必要なのに終局を双方が認めた時はそのまま地の目数の比較をさせる。
- 2、対局の停止後、一方が対局の再開を要請した場合は、相手方は先着する権利を有し、これに応じなければならない。(日本囲碁規約第九条3)
- 3、石がずれて戻せなくなったとき、
(日本囲碁規約第十三条2「対局中に盤上の石が移動し、かつ対局が進行した場合は、移動した石を元の着点に戻して続行する。この場合において対局者が合意できない場合は両負けとする。」)
- 4、反則(着手禁止点へ打つ、コウ立てをしないでコウを取る、囲んだ石を取り上げないで次を打つ、石をはがす)をした時点で反則負けとなる。
- 5、勝敗が決定した後は如何なる事が有っても判定は変わらない。

認定会について

基本原則

本会の認定会は1局60分内で打たせるのが基本であること、

- ・1級戦：時計を最初から使い、時間内に終局するように適宜進行を促す。
対局時計を押し忘れている場合、審判員或いは対局者間による指摘は可とする。
時間切れの場合はその時点で時間切れの対局者を負けにする。
- ・1級戦以外：時計を最後まで使わない。
現在の力を見るのが目的なので、時間切れの場合は審判の判断で勝敗を判断する。

開始まで

初めに担当班の受講生を着席させ、出席を確認して会場責任者に報告する。

対局中(栄区囲碁普及会の下記のローカルルールが一般原則より優先します)

基本原則にのっとり行動するが、受講生には厳しすぎる部分もあるのでトラブル対応については石がずれた時は「袖口で石をずらさないよう」審判員が注意し、直させる。

コウの取り番を間違えたときは同様に注意して打ち直させる。

石をはがしたときは初めに置いた所に戻させ、対局を続けさせる。

対局の進行が遅いときは60分以内に打ちきれるように両対局者に注意喚起する。

~~時計の使用に不慣れ者が多いので時々押し忘れに注意してやるとよい。~~

初めから時計を使用するときは審判が時計を見易い様に対局者の位置を変えるのも良い。

対局終了後

検討・手直しなどは周囲の対局の妨げにならぬよう静かに行うこと。

上達コース認定会に於ける審判員の心得と役割【2】

改訂1:H30.05.05 認定会担当

認定会の1週間前には、受講生とインストラクター(審判員)の出欠者名簿を各教室のチーフより上達コース担当宛に連絡し、それに基づいて組合せ表を作成する。

<認定会当日の流れに沿って>

- *開催場所の本郷地区センター9時開館に遅刻しないこと。
- *開館と同時に審判員は速やかに会場に入り、机、椅子、碁盤、碁石、マイクセットの設営をする。
- *9時20分に受講生を会場に入室させる。
- *組合せ表により、自分の担当班を確認し、その班の受講生の出欠を確認する。
- *総合進行係の上達コース認定会担当が各班の受講生の出欠を担当の審判員に確認する。
- *原則9時40分に第1局開始を宣言しますが、その前に受講生には1局60分以内に終わらせるよう注意し、対局の進行が遅い場合は早めるように促すこと。
- *対局記録表には組合せ表の順番どおりに記入し、それに従って対局させること。
- *1局終わる毎に受講生の勝ち負けを確認し、その後、全対局が終わった時点で受講生に再度勝ち負けの最終確認をすること。
- *対局記録表には審判員及び受講生のサイン、対局者の氏名、対局成績、進級の有無、3級以下の@の有無(2勝したかどうか)を正確に記入すること。
- *担当班の全対局が終われば、対局記録表を総合進行係に提出する。
- *審判員は受講生のルール順守、マナーに気を配るとともに、自身も名札着用、ポケットに手を入れたまま、テーブルに頬づえをつかない、ガムをかまないよう注意すること。
- *対局が周りより早く終わった班の審判員は、大きな声で話さない、周りに迷惑が掛からないように気を配ること。
- *審判員は担当する班からむやみに席を離れない、対局には口を挟まないこと。
- *対局中にトラブルが起きた場合は速やかに審判長に報告し、その指示を仰ぐこと。
- *1級戦は最初から時計を使用します。それ以外の対局で60分で終わりそうになれば、時計を使ってもかまいません(終局20分前に)。
- *対局時計の扱い方については、別掲の「対局時計の扱い方」を読み、十分理解しておくこと。
- *対局時計を使用する場合は、時計が見える位置に立つか、座ること。
- *審判員及び受講生は認定会終了後に使用した机、椅子、碁盤、碁石の後片付けをする。
- *審判員は、後片付けをした後に、判定会に集合のこと。(午後1時より)
- *判定会では、成績の確認、進級者の確認、運営上問題があったかどうかを検討する。
- *認定会での成績、問題点等は上達コース担当がまとめ、後日、関係インストラクター全員にメールにて連絡する。
- *成績結果等は、必要に応じて各教室で印刷し受講生に渡すこととする。